

令和7年度 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 実施計画書（継続団体用）

活動団体の本事業での活動テーマ
『京都・梅小路エリアのクリエイティブタウン化推進』

活動地域：京都市「京都駅西部梅小路・丹波口地域」

活動団体名：（一社）DESIGN KYOTO (DK)

中間支援主体名：梅小路クリエイティブプラットフォーム(U-PLAT)

参加団体の基本情報

(1) 活動団体の基本情報

団体名	一般社団法人DESIGN KYOTO (DK)
活動地域	京都府
専門性・強み	
#地場産業 #コーディネート #国際的ネットワーク #オープンファクトリー (オープンサイト) #自然・風土・歴史・文化 #Local Wisdom Journey (研修や体験プログラム) #エドノミ-	

団体概要
・2016年より、「オープンハウス、オープンファクトリー」とも呼ばれる「地域のモノづくり現場などのオープン」を中心とした交流事業を推進してきた団体 ・2025年度より、「Local Wisdom Journey」を軸に、「地域ならではの風土・文化をベースに国際的に独自の価値ある存在」を目指す地場産業の企業の集まりへと転換。 ・梅小路・丹波口を拠点に、変化に各地の自然と風土の現場、その中で長い時間をかけて育まれた多様な地場産業の現場への訪問と人が集い、伝え合うことから始まる交流を通じて、創造的な地域の未来につなげる活動を展開中 ・クラフトをテーマとしたカンファレンスやイベントを実施予定

(2) 中間支援主体の基本情報

団体名	梅小路クリエイティブプラットフォーム (UPLAT)
活動地域	梅小路・丹波口
専門性・強み	
#多様な地元主要プレイヤーとのネットワーク #中立的立場 #産官学連携 #梅小路・丹波口特化	

団体概要
・JR京都駅～梅小路京都西駅～丹波口駅のJR西日本山陰線沿いエリアである「京都駅西部エリア」の地域資源を活かした「クリエイティブタウン化」を目指すエリアマネジメント団体 ・構成メンバーは、設立経緯の異なる複数のまちづくり協議会(※1)、まちづくり会社(※2)、地域事業者(※3)、公園管理者(※4)が参画しておりオブザーバーとして京都市も議論参加
※1「京都・梅小路みんながつながるプロジェクト(事務局：JR西日本)」「梅小路京都西・七条通賑わいづくり協議会(事務局：スタート)」 ※2「(株)梅小路まちづくりラボ」 ※3「京都市リサーチパーク(株)」「COS KYOTO(株)」 ※4「(公財)京都市都市緑化協会」

活動団体と地域の紹介

梅小路・丹波口ゲートウェイ



KYOTO RESEARCH PARK



KYOTO MAKERS GARAGE



KAGAN HOTEL(Art hotel)



KYOTO BEER LAB(Craft Beer)



京都中央卸売市場



島原歴史地区



梅小路公園

活動団体と地域の紹介

洛中

梅小路・丹波口

洛外

京都

梅小路・丹波口

丹波・丹後

京都

梅小路・丹波口

外国

消費地

卸売市場

生産地

都市

梅小路公園

里山/里海



活動団体と地域の紹介

梅小路・丹波口エリアをベースとして京都府内各地はもちろん近畿、西日本各地などの実地へと訪問する「Local Wisdom Journey」を展開



梅小路公園の「朱雀の庭・いのちの森」は、2024年に「自然共生サイト」に認定

活動団体の目指す地域の姿

■ 地域循環共生圏の構築を通じてありたい地域の姿

多様なプレイヤーが交流し、寛容かつ信頼度の高いコミュニティを形成している。そして都市周辺部に位置する農村等も含めた地域を一体的に愛し、自分ごととして捉えて主体的に関わり合う中で、環境意識を高め、自然なこととして循環型の社会の構築に繋がっている。

■ 地域に必要なプラットフォームの体制や仕組み

○梅小路エリア内の各団体、プレイヤーはもとより、地域住民も含めて多くのステークホルダーがお互いに顔が見える関係性の構築

○今回の取り組みをきっかけに、各ステークホルダーの役割を棚卸しし、各事業の実施を通し、役割連携し、一体感を持ち共通のビジョンに向かって活動継続していけるコミュニティの醸成を図る

■ ローカルSDGs事業として取り組む内容

○梅小路公園での資源循環に関する活動を通じた、地域の関係者の環境意識醸成

・「資源がくるりプロジェクト」や「土中環境改善ワークショップ」、トークセッションなど

○廃棄物を活用したグッズやイベント備品等の制作、販売、レンタルによる環境意識醸成と収益化

○ツアープログラムの企画・実施と収益化

・梅小路公園を発着地として、都市部での資源循環の理解と丹波地域など農村地帯での資源循環・共生のあり方を体験できるツアー

■ 地域の現状と課題

○現状

・歴史的にも、そして現在も丹波・丹後への出発地点であり、都市⇄農村のゲートウェイエリア
・京都市中央卸売市場のある街として京の食文化という土壌のうえに、オーバーツーリズムの影響を受ける京都市の中では、遊休不動産等の適度な余白があり、島原地域の歴史的街並み、梅小路公園の自然アメニティ、芸大生を始めとしたクリエイティブプレイヤーの流入等、多様な街並み・人材が近接しながら共存している多様性にあふれているエリアであり、多様なプレイヤーが地域活性化に向けた活動を展開中

○課題

・多種多様なプレイヤー（企業・団体、個人、住民）が存在しているが、相互の認知・交流やクリエイティブエリアへの移行を目指していくという共通理解が不足

現時点のマングラ

多様なプレイヤーが周辺部の農村等も含めた地域を愛し、自分ごととして捉えて主体的に関わり合う中で環境意識を高め、自然なこととして循環型の社会の構築に繋がっている

人 関係人口増加
トレンドの計測
により
多様な共生圏の見える化

交流 国内外クリエイター・
アーティストの
展示・交流イベント機会
が多い梅小路エリア

場 「ものづくり」
「アート」「食」に
関するショールーム
コワーキング拠点が
ある梅小路エリア

体験 梅小路エリアを発着点とする
「地場産業を軸とした
Local Wisdom Journey」
を通じ、循環型社会に向けた啓蒙・
次世代人材育成・地場産業振興

地域での
活動・事業

コンポスト、土中環境等の
梅小路公園での
交流・啓発イベント

梅小路クリエイティブエリア
の認知度・ブランド向上

産業副産物等を活用したイベ
ントグッズの開発・レンタル

ツアーコンテンツ
開発と発信

アレンジャー同士の
交流コミュニティ醸成

府内産業や人の
見える化

多様なプレイヤー等
の交流機会の提供

拠点施設の開設
活性化

コーディネーター
人材育成

関係者の
巻き込み

地域のアレンジャー

地域住民

市場
関係者

アーティスト
クリエイター

COS KYOTO
DWK

KRP

めい
KAGAN

京都R
不動産

QUESTION
梅小路

MVC

U-PLAT
構成団体

地域のホテル
支配人

JR西
京都駅ビル開発

京都府・市
産業支援機関

通訳可能な
人材

京都市

京都府
自治体

京都
地域の課題

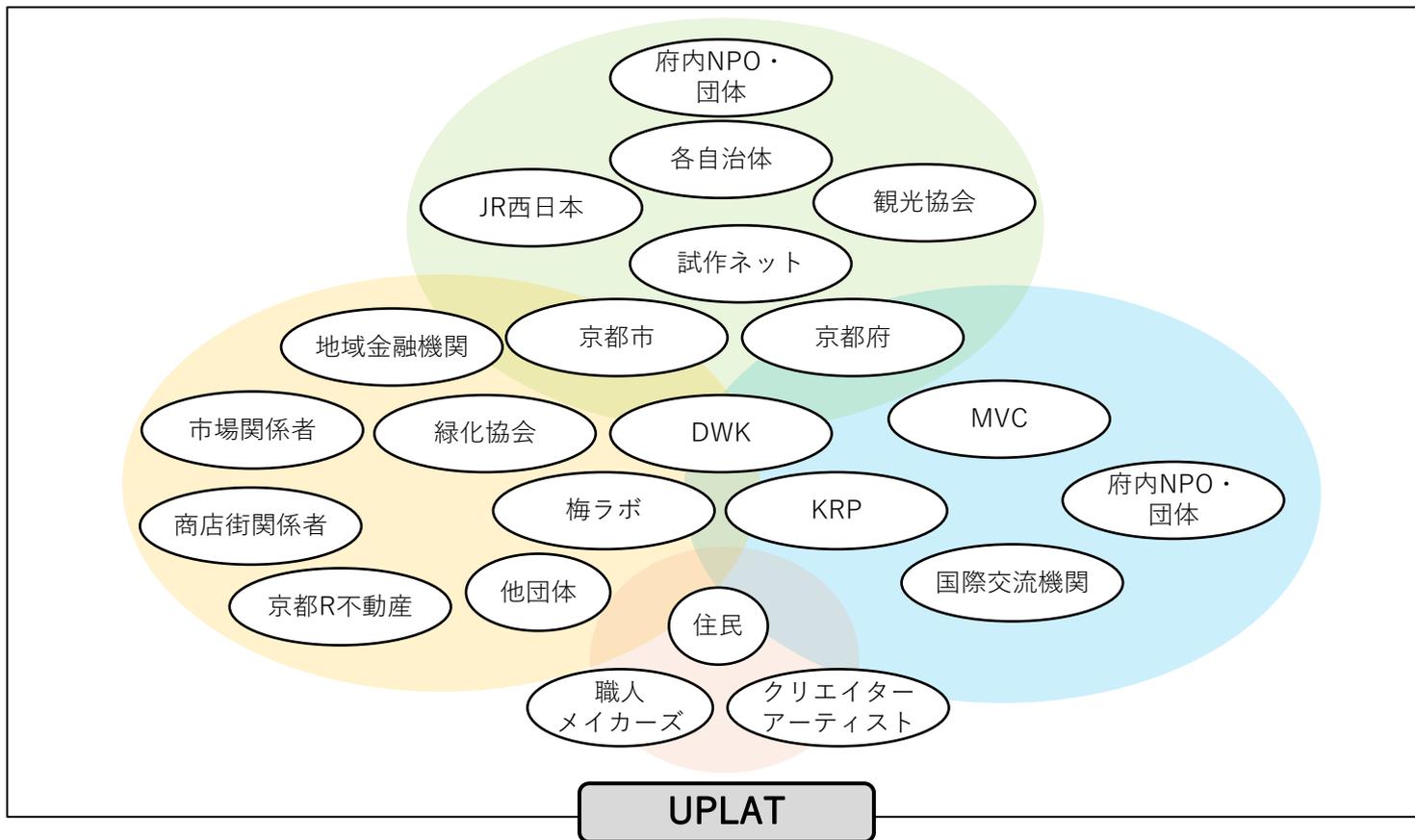
京都の産業の高度化や
イノベーション不足

京都の多業種間・
地域間での交流不足

観光客が地域ごとに偏重

市場場外地域ほかの
不動産利活用

“地域プラットフォーム”のイメージ



- ・ 梅小路・丹波口の地元・地元外へのイメージの共有・認知
- ・ 相互のさらなる交流とプレイヤーのさらなる見える化
 - ・ 共同での取り組みと安定化
 - ・ 国内外とのコーディネート人材
- ・ 一体的な情報発信やターゲットに合わせた発信

ローカルSDGs 事業の詳細

丹波口・梅小路を発着地点とした、地域の知恵を学ぶ「Local Wisdom Journey」	
あらすじ	
現代の社会や街の状況を踏まえた循環型の仕組みを考えていく上で、江戸時代に成立した都市と里山・里海地域の関係や森林・河川などを維持保全しながら自然の恵みをいただくための工夫といった、共生・相互依存の知恵 = Local Wisdomを体験を通じて学び、実際の社会に生かしていく	
ストーリー	
丹波口・梅小路クリエイティブエリアの中心に位置する梅小路公園は、2025年で30周年を迎える都市型公園であり、京都駅至近の国鉄操車場の跡地に人工的に作られた。その中にある「朱雀の庭・いのちの森」(2024年環境省「自然共生サイト」認定)は、都市の中に自然の生態系を復元することを目的に作られ、多様な動植物が戻ってきている。その中には里山の風景もあり、自然のメカニズムと人間の共生の知恵 = Local Wisdomが学べる貴重な場所である。ここでその知恵を学び、その上で実際の里山・里海などの周辺地域のフィールドに行くことにより、各地のLocal Wisdomをより深く理解・体験することが可能になる。なぜここで豊かで美しい水が湧いているのか、森林・田畑をどのように維持管理することで守ってきたか、社寺や祭事がある地域における助け合いコミュニティの維持にどう寄与しているか、その地域の恵みを生かした地場産業はなぜ生まれて、今の文化や社会の仕組みに寄与しているかといった地域の魅力をLocal Wisdomとして多面的・複層的に体験やワークショップ等を通じて理解し、そして現代の都市やビジネスに落とし込んでいくプログラムを構築する。それにより企業・学校などのTNFD・ネイチャーポジティブの事業再構築や環境教育などに寄与していく。京都駅至近の立地を生かし、「丹波口」の地名通り、地域へのゲートウェイとしての役割を果たしていく。	
事業の骨子	現時点で想定される課題・ボトルネック
① ありたい未来	多様なプレイヤーが交流し、寛容かつ信頼度の高いコミュニティを形成している。そして都市周辺部に位置する農村等も含めた地域を一体的に愛し、自分ごととして捉えて主体的に関わり合う中で、環境意識を高め、自然なこととして循環型の社会の構築に繋がっている。
② 課題	<ul style="list-style-type: none"> ・京都の多業種間・地域間での交流不足 ・観光客が地域ごとに偏重 ・多様なプレイヤー（企業・団体、個人、住民）が存在しているが、相互の認知・交流やクリエイティブエリアへの移行を目指していくという共通理解が不足
③ なぜこの事業をやるのか（Why）	<ul style="list-style-type: none"> ・梅小路公園が自然と共生する知恵を学べる環境教育拠点として、周辺住民が主体的に関与し、誇りに思える場としていく ・梅小路公園を各地の地域が持つLocal Wisdomを学べる入口として機能させることで、周辺地域への訪問を促進する
④ 地域資源	<ul style="list-style-type: none"> ・梅小路公園、中央卸売市場、島原歴史地区 ・食・アート・ものづくりなどを中心として多様なプレイヤーが集まるクリエイティブエリアとしてのポテンシャル ・ゲートウェイとしての丹波口の歴史的位置づけ
⑤ 商品・サービスの具体的な内容（What）	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の中から主体的に関与している人々を対象に、梅小路公園での環境教育のガイドができる人材育成を実施。新たな働き口の創出にもつなげる。「資源がぐるりプロジェクト」や「土中環境改善ワークショップ」、トークセッションなどを軸に実施。 ・企業や学校向けに、梅小路エリアを発着点とする「地場産業を軸としたLocal Wisdom Journey」を通じ、循環型社会に向けた啓蒙・次世代人材育成につなげる。そして地域に存在している地場産業の振興にもつなげる。 ・廃棄物を活用したグッズやイベント備品等の制作、販売、レンタルによる環境意識醸成と収益化
⑥ 担い手（Who）	<ul style="list-style-type: none"> ・梅小路公園 ・近隣の住民（土中環境改善ワークショップに継続参加している人が中心）、クリエイターら ・DK（地場産業の事業者）、COS KYOTO
⑦ 事業で生じる循環	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の地域の自然環境・公共物への意識や理解の向上、循環の仕組みへの理解の向上 →1) 里山・里海などの農村地域への訪問の増加→都市と農村村との交流・共生関係の再構築→資源循環の仕組みの構築、地域側での雇用の創出等の活性化 →2) 地場産業と自然の恵み・文化との再接続による高価値コンテンツ化→新事業や雇用の創出→自然・文化・担い手の維持継承
⑧ 事業で生じる成果	<ul style="list-style-type: none"> ・梅小路公園の自然環境を周辺住民が主体的に維持・管理する→梅小路公園を中心とした環境教育の担い手となっていく→地域内での仕事の創出、次世代への思いの継承、公園の維持管理コストの削減につながる。 ・地場産業の担い手が物の製造・販売以外にもツーリズムでの収入を確保できるようになる→Local Wisdomの維持発展や次世代への継承、雇用創出につながる。 ・農村地域への人の移動などが発生する→移動のための交通インフラや関係事業者の維持、オーバーツーリズムの解消に貢献する
	<ul style="list-style-type: none"> ・梅小路公園周辺住民の巻き込みおよび環境教育の担い手への育成まで時間を要する ・公園の自然環境の維持保全よりも、経済合理性を追求する力が増加することによる不動産開発等の進行が優先されること ・地域の住民、企業等の活動が個々になっている。ただ、UPLATの取り組みにより、相互の意識の共有や意見共有が進んだことで相互の関係性ができつつある。 ・自然環境が環境教育を含めた資源として活用できる、あるいはネイチャーポジティブの取り組みが企業としては当たり前前の活動として求められている、という意識の浸透が不十分。積極的にこのような活動に関与するほうが企業イメージの向上および結果としての企業業績の向上につながっていくという前提が共有されていくことが求められている。
	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
	<ul style="list-style-type: none"> ・京都府・京都市、周辺の自治体 ・JR西日本 ・国内外にネイチャーポジティブのツアー（エコツーリズムなど）を積極的にPR・販売できる企業 ・環境教育やTNFDなどの推進を担える人材育成プログラムを共に考えてくださる組織 ・地元クリエイターら

3カ年状態目標

2026年度末の状態目標

- ・緑化フェアをきっかけとした事業を通じて、「梅小路・丹波口から北中部に行く」という動きが地元・国内外の人たちに定着し、特にツアーが安定収益化している
- ・府内外のプレイヤーが梅小路・丹波口を拠点として様々なコラボレーションプロジェクトが生まれている

2025年度末の状態目標

- ・大阪・関西万博をきっかけとした事業を通じて、地元・国内外の人たちへ「梅小路・丹波口＝クリエイティブタウン」という認知が進んでいる
- ・3事業の形が整い、それぞれの運営に関与する人たちが広がっている
- ・活動するプレイヤーの増加や相互連携（コラボレーション等）が進んでいる

2024年度末の状態目標

- ・3つの事業が定着し、2025年万博へ向けての基盤が整っている
- ・地域の市民、プレイヤーとの相互認知が進んでいる

中間支援主体のありたい姿

■ 中間支援主体としての獲得目標

- ・ 地域事業者や自治体含む諸団体と、活動団体とのマッチング機能の充実。
- ・ 活動団体に不足するノウハウの指導（ファイナンス、地域マネジメント、情報発信など）
- ・ 諸活動団体の持つノウハウの吸収・文書化・横展開など（ノウハウの地域循環）

■ 中間支援主体としての本事業終了後の地域づくりへの貢献

- ・ あらたに活動団体が増えた時に、必要な各地域事業者や自治体を含む諸団体とのマッチング機能を発揮し、地域活性化に寄与し活動団体の成長にも貢献するWIN-WINなアレンジができるプラットフォーム機能を発揮したい
- ・ 地域のアレンジャーとして、国・京都府・京都市とまちづくり政策、環境政策等に関する政策議論ができるパイプラインを有し、地域の社会課題解決に向けた活動をリードできる民間プラットフォームとして貢献したい

中間支援主体の支援・取組計画

■ 中間支援主体の1年間の支援目標

- ・活動団体の取り組みが地域の現状および将来に向けて貢献するものであるということを自治体および諸団体などに紹介していくことで活動団体の信頼性を高めると共に、ビジネスとしての販路拡大等を支援する
- ・収益化に向けたモデル構築へのアドバイスや必要としているツアー企画、人材育成プログラム構築へのアドバイス

■ 支援計画

	活動団体の取組における現状と課題 (見立て)	課題を解決するために必要と考える手段 (打ち手)
①	限定的な人脈に依存しており、事業展開の拡充スピードに課題あり	活動団体の構想を、必要な自治体担当部局、梅小路公園管理者、パートナー事業候補者等に引き合わせ事業展開初期段階の進捗をサポートする
②	ローカルSDGs事業の実施に向けた関係者の巻き込み、信頼関係の維持に多忙故の不得手部分がある	事業構想段階で引き合せた、自治体担当部局、パートナー事業者等との定期状況報告や、相談機会が途切れていないかフォローしサポートする
③	ローカルSDGs事業が2026年度末の状態目標となる為には、いくつかの活動団体も現れ連携している体制が必要で、活動団体としてのさらなるリーダーシップが必要	活動団体の事業性が向上し、スタッフ増強が実現している前提で、ローカルSDGs事業のいくつかにおける事務局機能が担える体制となるようサポートする

